

NetSkateKoban

インストール時初期データ登録用

CSV ファイルフォーマット変換ツール

マニュアル (CSVIP1)



目次

1 NetSkateKoban用CSVファイルフォーマット変換ツールについて	4
2 初期データ登録用CSVファイルフォーマット変換ツールについて	5
3 CSV変換ツールのインストール	5
4 テンプレートファイル（変換元ファイル）について	6
■テンプレート作成時の注意点	6
■UserTerminal.csv	7
■SensorInterface.csv	9
■SwitchPort.csv	11
5 CSV変換対応表	13
6 データベースの初期化手順	14
■Postgres（Unix系）	14
■Postgres（Windows版）	15
■MS SQL Server 2000	18
■MS SQL Server 2005	19
7 CSV変換ツールの実行手順	20
8 NetSkateKoban上でのインポート手順	21
9 エラー対処	22
10 付録	23
■GLocation.csv：「場所」	23
■NLocation.csv：「ドメイン」	23
■Organization.csv：「所属」	23
■Network.csv：「ネットワーク」	24
■User.csv：「ユーザ」	25
■Terminal.csv：「ユーザ利用端末」	26
■Sensor.csv：「監視装置（各種センサ）」	27
■Interface.csv：「監視インターフェース」	28
■Switch.csv：「イーサネットスイッチ」	30
■Port.csv：「イーサネットスイッチのポート」	31

2006年4月12日発行

2006年4月26日第2刷発行 (CSVIP1 Ver1.0.4)

2006年8月31日第3刷発行 (CSVIP1 Ver1.0.4)

2006年9月29日第4刷発行 (CSVIP1 Ver1.1)

2006年11月2日第5刷発行 (CSVIP1 Ver1.1)

2007年8月20日第6刷発行 (CSVIP1 Ver4.1)

株式会社 サイバー・ソリューションズ

〒989-3204

宮城県仙台市青葉区南吉成 6-6-3 ICR ビル 3F

TEL : 022-303-4012 FAX : 022-303-4015

URL : <http://www.cysol.co.jp/>

お客様問い合わせ用 E メールアドレス : netskate-sales@cysol.co.jp

1 NetSkateKoban 用 CSV ファイルフォーマット変換ツールについて

本ソフトウェアは、NetSkateKoban v4.1用の登録データを CSV ファイルで作成するための補助ツールです。利用者が用意した CSV ファイルを NetSkateKoban v4.1 の CSV→DB インポートで利用できる CSV ファイルに変換します。この NetSkateKoban v4.1 用 CSV ファイルフォーマット変換ツールには以下の3つの種類があります。お使いの環境に合わせて適したツールをご使用ください。

名称	説明	KobanDB (Koban30DB) へのアクセス	入力ファイル一覧	出力ファイル一覧	制限
インストール時 初期データ登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール (CSVIP1)	NetSkateKoban の導入時に、あらかじめ準備した初期データを登録するために、NetSkateKoban 上でインポート可能な CSV ファイルを生成するためのツールです。	不要	UserTerminal.csv SensorInterface.csv SwitchPort.csv ※2	GLocation.csv NLocation.csv Organization.csv Network.csv User.csv Terminal.csv Sensor.csv Interface.csv Switch.csv Port.csv ※3	出力された CSV ファイルを NetSkateKoban 上でインポートする際には、データベースが初期化された状態である必要があります。
運用時 データ追加登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール (CSVIP2)	NetSkateKoban 上で現在運用中のデータベースへデータを追加するために、インポート可能な CSV ファイルを生成するためのツールです。ツール実行時に指定されたデータベースへ問い合わせを行い、その時点の KobanDB と整合性のとれた CSV ファイルを作成することができます。	必要 ※1			KobanDB へアクセス可能な環境上で実行する必要があります。各情報のキーとなるフィールドがデータベースに存在しないことが条件となります。(一部除く) ※2
登録済みユーザ向け 端末追加登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール (CSVIP3U)	NetSkateKoban 上で運用中のデータベースに登録されている「ユーザ」に対して、新たに端末を登録するために使用します。ツール実行時に指定されたデータベースへ問い合わせを行い、その時点の KobanDB と整合性のとれた CSV ファイルを作成することができます。	必要 ※4	UserTerminal.csv ※2	GLocation.csv NLocation.csv Organization.csv Terminal.csv ※3	KobanDB へアクセス可能な環境上で実行する必要があります。また、UserTerminal.csv に記述するユーザはすでに KobanDB に登録されているユーザに限ります。 ※5

- ※1 データベースへのアクセスに関する設定については、該当するツールのマニュアル内“データベースアクセスコントロールの設定”および“データ登録用 CSV ファイル変換ツールの実行手順”をご参照ください。
- ※2 詳細は該当するツールのマニュアル内“テンプレートファイル(変換元ファイル)のフォーマット”をご参照ください。
- ※3 各ファイルの詳細については、該当するツールのマニュアル内“付録”をご参照ください。
- ※4 データベースへのアクセスに関する設定については、該当するツールのマニュアル内“データベースアクセスコントロールの設定”および“端末追加用 CSV 変換ツールの実行手順”をご参照ください。
- ※5 詳細は該当するツールのマニュアル内“ユーザ情報のエクスポート方法”をご参照ください。

2 初期データ登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツールについて

初期データ登録用 CSV フォーマット変換ツール（以下 CSV 変換ツール）は、付属のテンプレートファイル（CSV ファイル）を元に作成された CSV ファイルを NetSkateKoban の CSV→DB インポート機能に対応した CSV ファイルへと変換・生成するためのツールです。

本ツールは、NetSkateKoban コンソールをインストールした PC 上で実行します。

※本ツールにより生成された CSV ファイルは、Koban30DB が初期状態の場合でのみインポート可能です。GUI 上でデータの登録や削除の操作を一度でも行った場合には、あらためて DB の初期化と再設定が必要となりますのでご注意ください。（本マニュアル「データベースの初期化手順」をご参照ください）

3 CSV 変換ツールのインストール

NetSkateKoban コンソール v4.1 をインストールした PC 上に”CSVIP1_***.zip”（***には CSV 変換ツールのバージョン番号が入ります）を用意します。

この ZIP ファイルを NetSkateKoban コンソールがインストールされたディレクトリ内に展開してください。

展開先フォルダ内に以下のファイルが正しく保存されているか確認してください。

(例)C:\Program Files\NetSkateKoban_Console_Ver4\CSVIP1

CSVImportPreprocessor.bat	（実行用 BAT ファイル）
koban_csvip.jar	（CSV 変換ツール本体）
UserTerminal.csv	（編集用テンプレートファイル）
SensorInterface.csv	（編集用テンプレートファイル）
SwitchPort.csv	（編集用テンプレートファイル）
UserTerminal(Example).csv	（テンプレートファイル編集例）
SensorInterface(Example).csv	（テンプレートファイル編集例）
SwitchPort(Example).csv	（テンプレートファイル編集例）
VERSION	（CSV 変換ツールバージョン参照ファイル）

本マニュアル“テンプレートファイル（変換元ファイル）のフォーマット”を参考にテンプレートファイルを編集します。

また、同梱の***（Example）.csv には各 CSV ファイルの入力例が記述されています。あわせてご参照ください。

4 テンプレートファイル（変換元ファイル）について

このパッケージには以下の3つのテンプレートファイルが付属しています。

「UserTerminal.csv」

登録する端末、およびその所有者を入力するためのファイルです。

また、上記の情報に加えて、所有者の「所属」、端末の「場所」「ドメイン」「所属」の情報を入力することが可能です。

「SensorInterface.csv」

ネットワークの監視に使用するセンサ、およびそのインターフェースの情報を入力するためのファイルです。

また、上記の情報に加えて、センサの「場所」「所属」、インターフェースの「ドメイン」を入力することが可能です。

「SwitchPort.csv」

監視するネットワーク内のスイッチ、およびそのポートの情報を入力するためのファイルです。

また、上記の情報に加えて、スイッチの「場所」「所属」、ポートの「場所」「ドメイン」の情報を入力することが可能です。

■ テンプレート作成時の注意点

テンプレート作成時にはその行の後半部分に空欄が続く場合でも、行全体で「全フィールド数-1」のカンマを入力する必要があります。カンマの数が足りない場合、変換時にエラーが発生する場合があります。

※Microsoft Excel®を使用して CSV ファイルを編集した際に、後半のフィールドが未入力の行について、その行の後半のカンマが削除されてしまう場合があります。

その場合は該当する行の未入力のセルにスペース（空白文字）を入力しておけば、カンマが削除されることなく、CSV ファイルを作成することができます。

※NetSkateKobanVer3.1以降では UserTerminal.csv ファイルの AllocatedIPAddress フィールドに対して複数 IP アドレスを入力することが可能です。

複数 IP アドレスを入力して生成した CSV ファイルは NetSkateKobanVer3.0 以前では利用できませんのでご注意ください。

■UserTerminal.csv

- UserTerminal.csv は下表の 20 フィールドに分かれています。
- **赤色で網掛けされているフィールドに関しては入力が必要となります。**
- UserTerminal.csv では同じ行に記述されている情報は関連付いているとみなされます。よって、各ユーザは同じ行に記述された端末の所有者として登録されます。1人のユーザに複数の端末を割り当てる場合は、その端末の数だけ同じユーザ情報を各端末の行に記述する必要があります。
- フィールドの順番は以下のリストの順に固定となります。順番を入れ替えることはできません。

フィールド	説明	フォーマット	スペースの挿入	文字数制限
UserID	ユーザの従業員番号, 学籍番号など	指定なし	可	64
UserName	ユーザの氏名	指定なし	可	255
Kana	ユーザの氏名フリガナ	指定なし	可	255
MailAddress	ユーザの E メールアドレス	半角英数、アンダーバー “_”、ピリオド “.”、ハイフン “-”、アットマーク “@”	不可	255
Address	ユーザの住所等	指定なし	可	無し
TelephoneNo	ユーザの連絡先電話番号	半角数字、ハイフン“-”、括弧“(” “)”, アスタリスク “*”, シャープ “#”	不可	128
Memo	ユーザの備考	指定なし	可	無し
UserOrgName	ユーザの所属の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの “¥” は使用不可	可	255
UserOrgPath	ユーザの所属の階層表記	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
MACAddress	端末の MAC アドレス	MAC アドレス。コロン「:」で区切った 6 フィールド、2 桁の 16 進数 (例 00:a0:6d:42:81:0a)	不可	17
TerminalName	端末の名称	指定なし	可	255
TerminalDescription	端末の説明等	指定なし	可	無し
AddressAllocation	IP アドレスの割当方式, dynamic か static	“Dynamic”、もしくは”Static”を指定		
AllocatedIPAddress	端末の IP アドレス	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数 (例 192.168.0.22)	不可	15
TermOrgName	端末の所属(所有)の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの “¥” は使用不可	可	255

TermOrgPath	端末の所属(所有)の階層表記	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
GLocName	端末の(設置)場所の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの “¥” は使用不可	可	255
GLocPaht	端末の(設置)場所の階層表記	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
NLocName	端末のドメインの名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの “¥” は使用不可	可	255
NLocPath	端末のドメインの階層表記	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し

■ SensorInterface.csv

- SensorInterface.csv は以下の 17 フィールドに分かれています。
- **赤色で網掛けされているフィールドに関しては入力が必要となります。**
- SensorInterface.csv では同じ行に記述されている情報は関連付いているとみなされます。よって、各センサは同じ行に記述されたインターフェースと関連付けられて登録されます。1つのセンサに複数のインターフェースを登録する場合は、そのインターフェースの数だけ同じセンサ情報を各インターフェースの行に記述する必要があります。
- フィールドの順番は以下のリストの順に固定となります。順番を入れ替えることはできません。

フィールド	説明	フォーマット	スペースの挿入	文字数制限
SensorName	DHCP・ARP センサの名称	指定なし	可	255
SensorAddress	DHCP・ARP センサの IP アドレス	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数 (例 192.168.0.22)	不可	15
SensorDescription	DHCP・ARP センサの説明等	指定なし	可	255
GLocName	DHCP・ARP センサの(設置)場所の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥”は使用不可	可	255
GLocPath	DHCP・ARP センサの(設置)場所の階層表記	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
OrgName	DHCP・ARP センサの所属(所有)の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥”は使用不可	可	255
OrgPath	DHCP・ARP センサの所属(所有)の階層表記	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
ServiceType	Packet Monitor (固定)			
AppType	Sensor (固定)			
Parameter	空白 (固定)			
Interface	DHCP・ARP センサのインターフェース名またはインターフェース番号	半角アルファベット、半角記号、半角数字 (例 “eth0”, “2” “fxp0”) マルチ VLAN センサのインターフェースを登録する場合には、インターフェース名に続けて “[VLAN#” と ”]” で VLAN 番号を囲み、入力します。 (例 “fxp1[VLAN#100]”)	不可	128
NLocName	インターフェースで監視するドメインの名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥”は使用不可	可	255

NLocPath	インターフェースで監視するドメインの階層表記	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
NetworkName	インターフェースで監視するネットワークの名称	指定無し	可	
NetworkAddress	インターフェースで監視するネットワークのアドレス	IP ネットワークアドレス。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255の十進数 (例 192.168.0.0)	不可	
SubnetMask	インターフェースで監視するネットワークのサブネットマスク	IP ネットマスク。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255の十進数 (例 255.255.255.0)	不可	
DefaultGateway	インターフェースで監視するネットワークのデフォルトルート	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255の十進数 (例 192.168.0.22)。複数登録する際には、さらにカンマ“,”で区切って全体を「」(2重引用符)で囲んでください。	不可	1アドレスにつき 15 (複数可)

■SwitchPort.csv

- SwitchPort.csv は以下の 29 のフィールドに分かれています。
- 赤色で網掛けされているフィールドに関しては入力が必要となります。
- 黄色で網掛けされているフィールドに関しては条件付で入力が必要となります。
- SwitchPort.csv では同じ行に記述されている情報は関連付いているとみなされます。よって、各スイッチは同じ行に記述されたポートと関連付けられて登録されます。1つのスイッチに複数のポートを登録する場合は、そのポートの数だけ同じスイッチ情報を各ポートの行に記述する必要があります。
また、スイッチのみを登録する場合には、14番目のフィールド（"PortNo"フィールド）以降は空欄で構いません。
- フィールドの順番は以下のリストの順に固定となります。順番を入れ替えることはできません。

フィールド	説明	フォーマット	スペースの挿入	文字数制限
SwitchName	スイッチの名称	指定なし	可	255
SwitchAddress	スイッチの IP アドレス	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数（例 192.168.0.22）	不可	15
SwitchDescription	スイッチの説明等	指定なし	可	255
ProductName	スイッチの製品名	指定なし	可	255
SerialNo	スイッチのシリアル番号	指定なし	可	255
PartNo	スイッチのパーツ番号	指定なし	可	255
OSVersion	ファームウェアバージョン番号	指定なし	可	255
SysContact	管理者のメールアドレス等 (SNMP MIB: SysContact)	指定なし	可	255
SwitchStatus	none（固定）			
SwitchGLocName	スイッチの(設置)場所の名称	指定なし	可	255
SwitchGLocPath	スイッチの(設置)場所の階層表記	指定なし	可	無し
OrgName	スイッチの所属(所有)の名称	“¥”以外の文字 パスの区切りの“¥”は使用不可	可	255
OrgPath	スイッチの所属(所有)の階層表記	指定なし (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
PortNo	ポートのインデックス番号 (スイッチに関連付けてポートを登録する場合は必須)	半角数字	不可	無し
PortName	ポートの名称(スイッチに関連付けてポートを登録する場合は必須)	指定無し	可	255

Vlan_ID	ポートの VLAN ID	半角数字	不可	無し
MediaType	ポートのメディアタイプ	指定無し	可	32
PortSecurity	none (固定)			
PortStatus	none (固定)			
NetworkName	ポートの接続しているネットワークの名称 (ポートを SwiMon センサの監視インターフェースとして登録する場合は必須)	指定無し	可	255
NetworkAddress	ポートの接続しているネットワークのアドレス (ポートを SwiMon センサの監視インターフェースとして登録する場合は必須)	IP ネットワークアドレス。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255 の十進数 (例 192.168.0.0)	不可	15
SubnetMask	ポートの接続しているネットワークのサブネットマスク (ポートを SwiMon センサの監視インターフェースとして登録する場合は必須)	IP ネットマスク。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255 の十進数 (例 255.255.255.0)	不可	15
DefaultGateway	ポートの接続しているネットワークのデフォルトルート (ポートを SwiMon センサの監視インターフェースとして登録する場合は必須)	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255 の十進数 (例 192.168.0.22)。複数登録する際には、さらにカンマで区切って全体を「」(2重引用符)で囲んでください。	不可	1アドレスにつき 15 (複数可)
PortGLocName	ポートの接続先の場所の名称	“¥”以外の文字 パスの区切りの“¥”は使用不可	可	255
PortGLocPath	ポートの接続先の場所の階層表記	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
NLocName	ポートの接続先のドメインの名称	“¥”以外の文字 パスの区切りの“¥”は使用不可	可	255
NLocPath	ポートの接続先のドメインの階層表記	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
ServiceType	“Switch” (SwiMon センサとして登録する場合は必須・固定)			
AppType	“Swimon” (SwiMon センサとして登録する場合は必須・固定)			

5 CSV 変換対応表

以下の表はテンプレートファイルを元に各フィールドの編集を行い、変換ツールを実行した場合の変換対応表となります。

(*1-4)の印のついた同名のファイルについては、変換の際に変換元の3ファイル間で情報を統合し、ひとつのCSVファイルとして出力されます。

最終的に、変換元の3ファイルから NetSkateKoban 上でインポート可能な10個のCSVファイルが作成されます。

変換元ファイル	出力されるCSVファイル
UserTerminal.csv	User.csv
	Terminal.csv
	(*1)GLocation.csv (GLocPathが記述されている場合)
	(*2)NLocation.csv (NLocPathが記述されている場合)
	(*3)Organization.csv (UserOrgPathまたはTermOrgPathが記述されている場合)

SwitchPort.csv	Switch.csv
	Port.csv
	(*4)Network.csv (ネットワーク情報”NetworkName, NetworkAddress, SubnetMask, DefaultGateway[オプション]”が記述されている場合)
	(*1)GLocation.csv (SwitichGLocPathまたはPortGLocPathが記述されている場合)
	(*2)NLocation.csv (NLocPathが記述されている場合)
(*3)Organization.csv (OrgPathが記述されている場合)	

SensorInterface.csv	Sensor.csv
	Interface.csv
	(*4)Network.csv (ネットワーク情報”NetworkName, NetworkAddress, SubnetMask, DefaultGateway[オプション]”が記述されている場合)
	(*1)GLocation.csv (GLocPathが記述されている場合)
	(*2)NLocation.csv (NLocPathが記述されている場合)
(*3)Organization.csv (OrgPathが記述されている場合)	

6 データベースの初期化手順

本ツールにより生成された CSV ファイルは、Koban30DB が初期状態の場合でのみインポート可能です。GUI 上でデータの登録や削除の操作を一度でも行った場合には、あらためて DB の初期化と再設定が必要となります。

データベースの削除 (DropDB) ・再設定の手順

■Postgres (Unix 系)

1. PostgreSQL のインストール先ディレクトリに移動します。このとき、アカウントは”postgres” とします。

```
$ cd /usr/local/pgsql
```

2. Dropdb コマンドを用いて、Koban30DB を削除します。

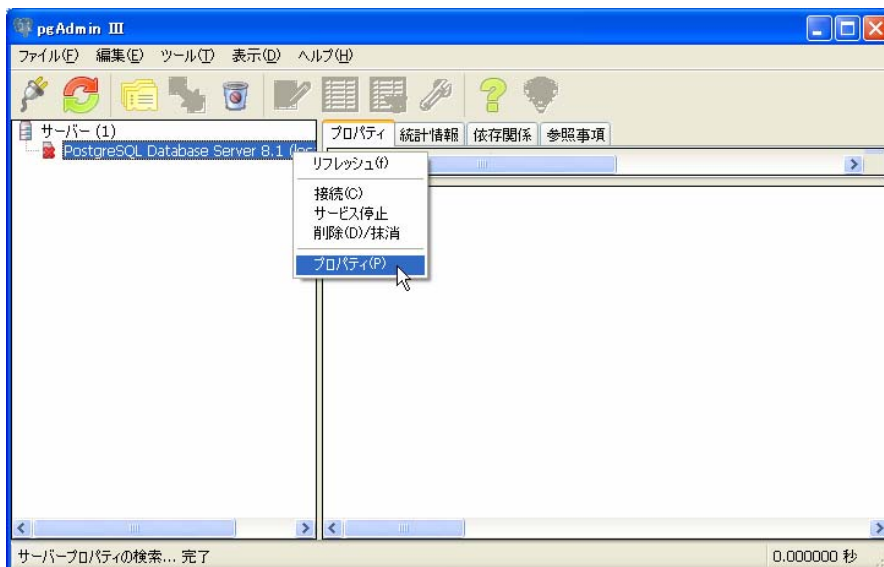
```
$ ./bin/dropdb -U postgres -h localhost Koban30DB
```

新規にデータベースを作成する際に、あらためてユーザの作成や外部から接続可能なアドレスの設定を行う必要はありません。データベース領域、およびデータベーステーブルのみ再度作成してください。データベース領域、データベーステーブルの作成については、「NetSkateKoban v4.1 インストレーションガイド」“7.2.1 初期設定と DB 領域の作成”内の (4)、(7)、および、“7.2.2 : テーブル領域の作成”を参照してください。

■Postgres (Windows 版)

1. pgAdmin を起動します。ツリーより Koban30DB が登録されているサーバを選択し右クリックします。

ポップアップメニューより「プロパティ」を選択します。

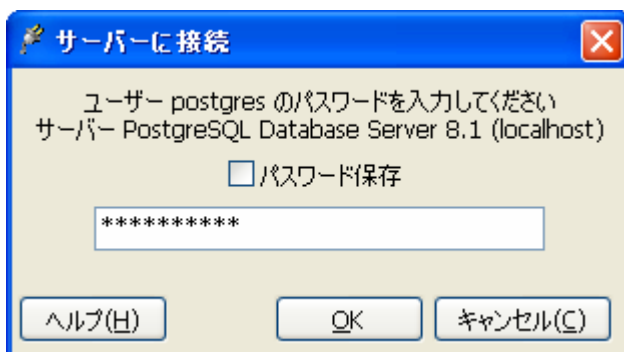
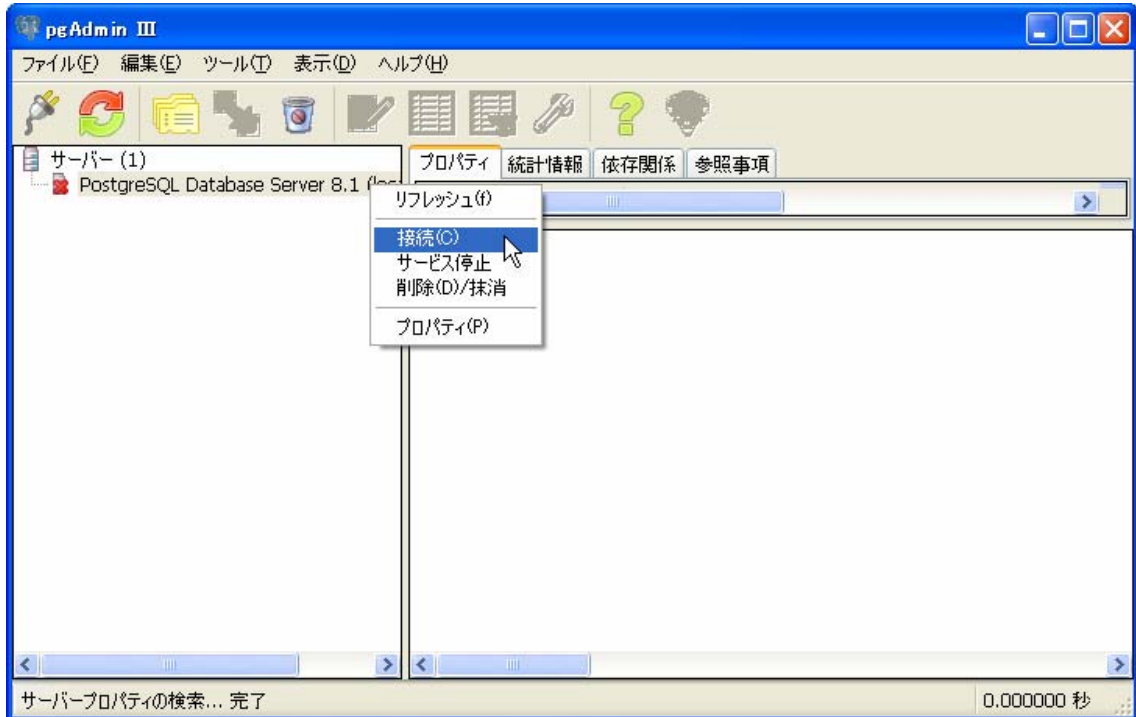


2. DB サーバにログインする「ユーザ名」を DB の管理者権限のあるユーザに設定します。

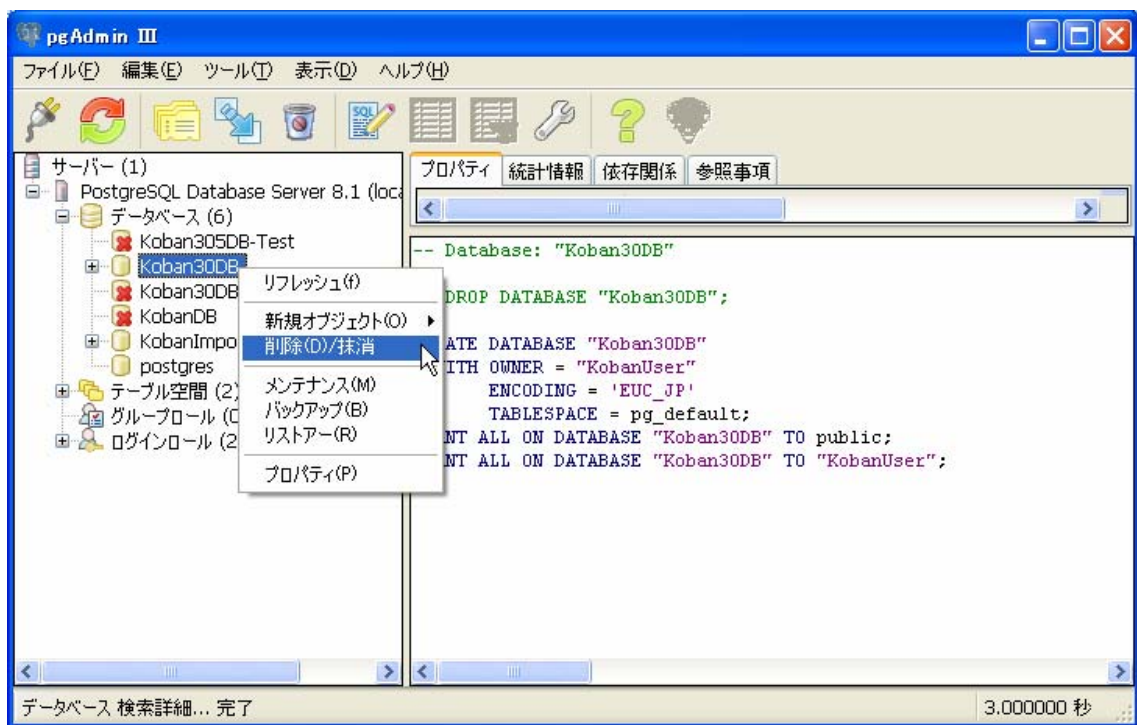


入力後「OK」ボタンをクリックし、設定を確定します。

- 再度ツリーよりサーバを選択し、右クリックします。
ポップアップメニューより「接続」を選択します。
パスワード確認ダイアログが表示された場合は設定したパスワードを入力し、サーバに接続します。



4. ツリーより「データベース」 - 「Koban30DB」を選択し、右クリックします。
ポップアップメニューより「削除 (D) / 抹消」を選択します。
確認ダイアログが表示されるので「はい」を選択して DB の削除は完了です。



新規にデータベースを作成する際に、あらためてユーザの作成や外部から接続可能なアドレスの設定を行う必要はありません。データベース領域、およびデータベーステーブルのみ再度作成してください。

データベース領域、データベーステーブルの作成については、「NetSkateKoban インストレーションガイド」“7.3.1 初期設定と DB 領域の作成”内の (1)、(2)、(3)、および、“7.3.2 : テーブル領域の作成”を参照してください。

■MS SQL Server 2000

SQL Server 2000 がインストールされており、インストールした OS（例：Windows 2000 Server）に管理者権限をもったユーザでログオンしているものとします。

Koban30DB を使用して NetSkateKoban マネージャが起動中の場合、NetSkateKoban マネージャを停止してから以下の作業を行ってください。

- 1) SQL Server Enterprise Manager の左ペインから [コンソールルート]・[Microsoft SQL Servers]・[SQL Server グループ]・[ComputerName]・[データベース]と+ 記号を展開し、[Koban30DB] をハイライト（選択）状態にします。
- 2) 右クリックするとデータベースに対して行える管理操作メニューが表示されます。
- 3) [削除(D)] を選択します。
- 4) 確認ダイアログが表示されるので「はい」を選択します。

新規にデータベースを作成する際に、あらためてユーザの作成や外部から接続可能なアドレスの設定を行う必要はありません。データベース、およびデータベーステーブルのみ再度作成してください。

データベース・データベーステーブルを作成する手順については、NetSkateKoban インストレーションガイド “7.4.1 初期設定と DB 領域の作成” 内の “1. データベースの作成” の手順を実行してデータベース領域を作成し、“7.4.2 : テーブルの作成” の手順を実行してテーブル領域を作成してください。

■MS SQL Server 2005

SQL Server 2005 がインストールされており、インストールした OS（例：Windows Server 2003）に管理者権限をもったユーザでログオンしているものとします。

Koban30DB を使用して NetSkateKoban マネージャが起動中の場合、NetSkateKoban マネージャを停止してから以下の作業を行ってください。

- 1) Microsoft SQL Server Management Studio から Koban30DB に接続します。
- 2) オブジェクトエクスプローラから [データベース] を展開し [Koban30DB] をハイライト (選択) 状態にします。
- 3) 右クリックするとデータベースに対して行える管理操作メニューが表示されます。
- 4) [削除(D)] を選択します。
- 5) “オブジェクトの削除” ダイアログが表示されるので「OK」を選択します。

新規にデータベースを作成する際に、あらためてユーザの作成や外部から接続可能なアドレスの設定を行う必要はありません。データベース、およびデータベーステーブルのみ再度作成してください。

データベース・データベーステーブルを作成する手順については、NetSkateKoban インストレーションガイド “7.5.1 初期設定と DB 領域の作成” 内の “1. データベースの作成” の手順を実行してデータベース領域を作成し、“7.5.2 : テーブルの作成” の手順を実行してテーブル領域を作成してください。

7 CSV 変換ツールの実行手順

実行の前に、“UserTerminal.csv”、“SensorInterface.csv”、“SwitchPort.csv”が CSVVIP1 フォルダ内に保存されていることを確認してください。

確認ができれば CSV 変換ツールを実行します。実行には以下の2つの方法があります。

- ①エクスプローラより CSVVIP1 フォルダに移動し、CSVImportPreprocessor.bat をダブルクリックします。
- ②またはコマンドプロンプトより”CD”コマンドによって CSVVIP1 フォルダに移動し、CSVImportPreprocessor.bat を実行します。

開始時に以下のメッセージが表示されます。

```
--== Started CSV PreProcessor ==--
```

CSV の変換作業が終了すると以下のメッセージが表示されます。

```
--== Completed executing CSV PreProcessor ==--
```

CSV の変換作業後に以下のようなメッセージが表示された場合は変換中にエラーが発生した可能性があります。“9章：エラー対処”を参考に、もう一度変換作業を実施してください。

```
--== Some error occurred in converting CSV file. Please refer to the output log('log')==--
```

変換された CSV ファイルは CSVVIP1 フォルダ内の「KobanCSVforImport」フォルダに出力されます。

8 NetSkateKoban 上でのインポート手順

NetSkateKoban マネージャが使用するデータベースへ、作成した CSV ファイルをインポートする手順を説明します。

※CSV 変換ツールを実行して“CSV→DB インポート”用 CSV を作成してから、NetSkateKoban 上でインポート作業を行うまでの間に、NetSkateKoban コンソールからデータ（ユーザ情報、センサ情報等）の登録・編集・削除は行わないでください。本ツールを用いて変換・作成された CSV ファイルは初期状態のデータベースに対してのみインポートすることができます。

データベースの初期化手順については本マニュアル「データベースの初期化手順」をご参照ください。

- (1) 作成したインポート用 CSV ファイルを“KobanCSVforImport”フォルダごと NetSkateKoban コンソールを実行する PC 上にコピーします。
(コンソールを実行する PC 以外で変換作業を行った場合)
- (2) NetSkateKoban コンソールを起動します。
- (3) インポートを行う Koban マネージャへログインします。
- (4) 「ファイル (F)」メニューより「CSV→DB インポート」を選択します。
- (5) CSV ファイルが保存されているフォルダを指定するダイアログが表示されます。ここで、今回作成された「KobanCSVforImport」フォルダを指定します。
- (6) 「次へ」ボタンをクリックします。
- (7) インポートする項目を選択するダイアログが表示されます。
- (8) ここで、インポートする項目のチェックボックスにチェックを入れ、「インポート」ボタンをクリックします。
- (9) インポートする情報の確認ダイアログが表示されます。表示されている項目を確認後、「OK」ボタンをクリックします。

以上で、NetSkateKoban マネージャへのインポートは完了です。

9 エラー対処

CSV フォーマット変換ツールを実行した際、および CSV→DB インポートを行った際にエラーが発生した場合にご参照ください。

	現象	確認事項	対処方法
1	CSVImportPreprocessor.bat を実行しても「指定されたパスが見つかりません。」と表示され、変換に失敗してしまう。	NetSkateKoban コンソールをインストールしたフォルダ内で実行していますか？	本ツールは NetSkateKoban コンソールがインストールされたフォルダ内で実行する必要があります。”4章:CSV 変換ツールの実行手順”を参考に必要なファイルを上記フォルダ内に移動してから実行してください。
2	入力した行が変換・出力されない	各変換元ファイルの必須項目は入力されていますか？	必須項目は必ず入力してください。入力されていない場合は変換の対象となりません。必須項目については”3章:テンプレートファイルのフォーマット”を参照してください。
3	CSVImportPreprocessor.bat を実行しても、空の CSV ファイルが生成される。	CSVImportPreprocessor.bat および csvip.jar と同じフォルダに以下の変換元のファイルがありますか？ UserTerminal.csv SensorInterface.csv SwitchPort.csv	CSVImportPreprocessor.bat および csvip.jar と同じフォルダに変換元のファイルを準備してください。
4	CSVImportPreprocessor.bat を実行しても以下のエラーメッセージが表示されてしまう。 --== Some error occurred in converting CSV file. Please refer to the output log('log/')==--	出力先フォルダ内の CSV ファイルを別のアプリケーションで開いていませんか？	Excel 等、他のアプリケーションで出力先の CSV ファイルを開いている場合に、このようなエラーが発生します。他のアプリケーションを終了させてから再度 CSV の変換を実行してください。
5	変換された CSV ファイルを NetSkateKoban 上でインポートしようとするエラーが発生する。	各フィールドのフォーマットや文字数などの制限に沿って入力していますか？	各フィールドのフォーマットや文字数の制限を再度確認してください。フォーマットや文字数については”テンプレートファイル(変換元ファイル)”を参照してください。

10 付録

付録として、本ツールによって生成される 10 個の CSV ファイルのフォーマットを以下に示します。

NetSkateKoban 上で“CSV→DB インポート”機能を用いてインポートを行う際には、各 CSV ファイルが以下のようなフォーマットに従っている必要があります。

また、**赤色で網掛けされているフィールドに関しては入力が必要となります。**

(注) “スペース挿入”は入力する文字と文字の間に空白文字（スペース）を挿入することを指します。

■GLocation.csv : 「場所」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
GLocID	場所 ID	半角数字	不可	2 ~ 2147483647
DisplayName	場所の名称	“¥”記号以外の文字列	可	255 文字
Path	場所の階層表記	指定なし (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■NLocation.csv : 「ドメイン」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
NLocID	ドメイン ID	半角数字	不可	2 ~ 2147483647
DisplayName	ドメインの名称	“¥”記号以外の文字列	可	255 文字
Path	ドメインの階層表記	指定なし (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■Organization.csv : 「所属」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
OrgID	所属 ID	半角数字	不可	2 ~ 2147483647
DisplayName	所属の名称	“¥”記号以外の文字列	可	255 文字
Path	所属の階層表記	指定なし (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ Network.csv : 「ネットワーク」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
NetworkID	ネットワーク ID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NetworkName	ネットワークの名称	指定なし	可	255 文字
NetworkAddress	ネットワークのアドレス	ドット”.” で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数	不可	15 文字
SubnetMask	ネットワークのサブネットマスク	ドット”.” で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数	不可	15 文字
DefaultGateway	ネットワークのデフォルトルート	ドット”.” で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数。 複数登録する際には、さらにカンマ “,” で区切って全体を「”」（2 重引用符）で囲んでください。	不可	1 アドレスにつき 15 文字
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ User.csv : 「ユーザ」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
ID	ユーザ ID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
UserID	ユーザの従業員番号, 学籍番号など	指定なし	可	64 文字
UserName	ユーザ氏名	指定なし	可	255 文字
Kana	ユーザの氏名フリガナ	指定なし	可	255 文字
MailAddress	ユーザの E メールアドレス	半角英数、アンダーバー “_”、ピリオド “.”、ハイフン “-”、アットマーク “@” (※ “@” は必須) (例) “koban@cysol.co.jp”, ”koban@cysols.com”	不可	255 文字
Address	ユーザの住所等	指定なし	可	無し
TelephoneNo	ユーザの連絡先電話番号	半角数字、ハイフン “-”、括弧 “(” “)”、アスタリスク “*”, シャープ “#”	不可	128 文字
Memo	ユーザの備考	指定なし	可	無し
OrgID	Organization.csv ファイルの OrgID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ Terminal.csv : 「ユーザ利用端末」

フィールド	説明	フォーマット	スペース 挿入	文字数 制限
MACAddress	端末の MAC アドレス	コロン「:」で区切った 6 フィールド、2 桁の 16 進数	不可	17 文字
TerminalName	端末の名称	指定なし	可	255 文字
TerminalDescription	端末の説明等	指定なし	可	無し
AddressAllocation	IP アドレスの割当方式	“Dynamic”、もしくは”Static”を指定		
AllocatedIP	端末の IP アドレス	ドット”.”で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数。複数登録する際には、全体を「”」で括って IP アドレスをカンマ“,”で区切ってください	不可	無し
UserID	<u>User.csv</u> ファイルの <u>ID</u> フィールドを指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
OrgID	<u>Organization.csv</u> ファイルの <u>OrgID</u> を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
GLocID	<u>GLocation.csv</u> ファイルの <u>GLocID</u> を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NLocID	<u>NLocation.csv</u> ファイルの <u>NLocID</u> を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ Sensor.csv : 「監視装置 (各種センサ)」

フィールド	説明	フォーマット	スペース 挿入	文字数 制限
SensorID	センサーID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
SensorName	ARP-DHCP センサの名称	指定なし	可	255 文字
SensorAddress	ARP-DHCP センサの IP アドレス	ドット”.” で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数	不可	15 文字
SensorDescription	ARP-DHCP センサの説明等	指定なし	可	255 文字
OrgID	Organization.csv ファイルの OrgID を指しま す	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
GLocID	GLocation.csv フ ァイルの GLocID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ Interface.csv : 「監視インターフェース」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数 制限
InterfaceID	インターフェース ID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
ServiceType	DHCP-ARP センサおよび CpMonitor の場合は ”Packet Monitor”に固定 SwiMon センサの場合は “Switch”に固定			
AppType	DHCP-ARP センサの場合は ”Sensor”に固定 SwiMon センサの場合は “SwiMon”に固定 CpMonitor の場合は “CpMonitor” に固定			
Parameter	SwiMonセンサの監視インターフェースとして登録する場合は 必須 です。 (Port.csv ファイルの中から監視インターフェースとして登録するポートの PortID を指定します。) DHCP-ARP センサの場合、CSV エクスポートしたファイルを使用する際はそのセンサが通知した Trap の Version が入力されています。	指定なし	可	255 文字
Interface	DHCP-ARP センサまたは SwiMon センサの監視インターフェース名。(SwiMon センサの場合はスイッチのポート名になります。)	半角アルファベット、半角記号、半角数字 (例) “eth0”, “2”, “fxp0”, “fxp1[VLAN#100]”, Fa0/13”	不可	128 文字
SensorID	Sensor.csv ファイルの SensorID を指します。(DHCP-ARP センサの監視インターフェースを登録する場合のみ記述します。)	半角数字	不可	1 ~ 2147483647

	SensorID を指定した場合は”SwitchID”は空とします。)			
SwitchID	Switch.csv ファイルの SwitchID を指します (SwiMon センサの監視インターフェースを登録する場合のみ記述します。 SwitchID を指定した場合は”SensorID”は空とします。)	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NetworkID	Network.csv ファイルの NetworkID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NLocID	NLocation.csv ファイルの NLocID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■Switch.csv : 「イーサネットスイッチ」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
SwitchID	スイッチ ID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
SwitchName	スイッチの名称	指定なし	可	255 文字
SwitchAddress	スイッチの IP アドレス	ドット”.” で区切った4フィールド、0-255 の十進数	不可	15 文字
SwitchDescription	スイッチの説明等	指定なし	可	255 文字
ProductName	スイッチの製品名	指定なし	可	255 文字
SerialNo	スイッチのシリアル番号	指定なし	可	255 文字
PartNo	スイッチのパーツ番号	指定なし	可	255 文字
OSVersion	ファームウェアバージョン番号	指定なし	可	255 文字
SysContact	管理者のメールアドレス等 (SNMP MIB: SysContact)	指定なし	可	255 文字
SwitchStatus	“none”に固定			
OrgID	Organization.csv ファイルの OrgID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
GLocID	GLocation.csv ファイルの GLocID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■Port.csv : 「イーサネットスイッチのポート」

フィールド	説明	フォーマット	スペース 挿入	文字数 制限
PortID	ポート ID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
PortNo	ポートのインデックス 番号	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
PortName	ポートの名称	指定なし	可	255 文字
Vlan_ID	ポートの VLAN ID	半角数字	不可	0 ~ 2147483647
MediaType	ポートのメディアタイ プ	指定なし	可	32 文字
PortSecurity	ポートセキュリティ	指定なし	可	32 文字
PortStatus	ポートステータス	指定なし	可	16 文字
NetworkID	Network.csv ファイル の NetworkID を指し ます	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
SwitchID	Switch.csv ファイルの SwitchID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
GLocID	GLocation.csv ファイ ルの GLocID を指しま す	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NLocID	NLocation.csv ファイ ルの NLocID を指しま す	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

※ “CSV→DB インポート” 機能・各 CSV ファイルのフォーマットについてのさらに詳細な説明については NetSkateKoban リファレンスマニュアル (管理編) 内の「CSV→DB インポート」の節をご参照ください。